



佐々木大三郎 議員  
(市民クラブ)  
一問一答方式

## 財政状況と 対応策は

**問**.....  
遠野市の財政状況は健全であるといえるか。

**答**.....  
総務省が示す実質赤字比率や実質公債費比率など5つの指標内容から健全財政範囲内にある。

**問**.....  
最近では借入金(借金)

の増加によって「実質公債比率」は増加傾向にある。また、今後は人口減少により国や県からの交付税・補助金の減少や、当市の貯金である「主要三基金」残高の取り崩しなど財政の硬直化が懸念されるが。

**答**.....  
人件費は、定数管理計画による職員数の削減により、平成17年度に38億円だった人件費を平成27年には30億円にまで削減している。物件費は、東日本大震災による放射能対策費や除雪費などの地域特性の影響によることなどが要因ではあるが、より一層適正化に努める。

に努めている。主要三基金についても、計画目標額を下回らないよう、健全財政の保持に努めている。

**問**.....

類似自治体と比較し、人件費・物件費が割高になっている。事業運営内容は非効率的で生産性も低いと認識するが。

**問**.....

観光客の入込数は、平成22年度以降毎年大幅に減少しているが要因は何か。

**答**.....  
県内の観光客も減少傾向にある。特に、昨年は台風10号の影響で大幅に減少している。

**問**.....

観光客数減少への抜本的な解決策は。

**答**.....  
市民や観光協会、ふるさと公社など官民一体となった取り組みや、海外のお客様を取り込むために発足させ

## 観光客減少の解決策は

た「遠野のもの・こころ海外交流推進委員会」、METE(ワイ・ファイ)環境の整備などに取り組んでいる。

**答**.....  
トップセールスは、市長としての役目であり責務なので、今後も機会あることに取り組んでいく。

**問**.....  
本田市長と遠野市の知名度の高さを活かす



SL 銀河を降り立った観光客を郷土芸能団体がお出迎え



菊池 巳喜男 議員  
(市民クラブ)  
一問一答方式

## 求められる産婦人科医師 現状と対策は

**問**.....  
市内妊産婦への現状

**答**.....  
平成14年3月から県立遠野病院の産婦人科医師が不在となり、15年が経過している。平成14年度から、市外の産科医療機関に通院する妊産婦に交通費助成を行っている。

月に公設公営の遠野市助産院「ねっと・ゆりかご」を開設し、常勤助産師2名を活用して妊産婦支援を始め、今年で10年目となっている。その中では、助産師によるきめ細かな健康教育、家庭訪問や相談による指導を行い不安の解消に努め、安全・安心な出産に備える活動を継続している。それでも、急に生まれそうになった妊婦が、医療機関に搬送と

いう緊急時には助産師が救急車に同乗し、安全に・迅速に・円滑な搬送への対応ができる体制も整えている。

**問**.....

産婦人科医師を養成

オール岩手で産婦人科に限らず、医師の養成・確保の課題に取り組むことが重要である。さらに今後、遠野市独自の「産婦人科医師募集の専用ホームページ」の開設を進め努めていく。

する施策も必要ではないか。

## どうする、いじめ 解消を目指して

**問**.....  
市内小中学校のいじめの現状と対策は、どのようなになっているのか。

**答**.....  
平成27年度のいじめ認知件数は、小学校で74件、中学校で44件の合計118件であり、増加している。平成28年度分は調査中であるが増加傾向にある。件数が増加した要因については、児童生徒や保護者を対象としたアンケートを実施し、積極的ないじめの認知に努め、適切に実態を把握して対応を行っている。結果と捉えている。

### その他の質問

- 人口減少の中での地域づくりについて



今年で10年目となる遠野市助産院「ねっと・ゆりかご」